

平成19年人文学部文化コミュニケーション学科

教員研究業績一覧 (2007.1.1—12.31)

Academic Achievements in 2007 :

Department of Culture and Communication, Faculty of Arts

凡例：

氏名 ①著書 ②論文・研究ノート ③翻訳 ④書評・随筆等 ⑤学会・研究会等での報告 ⑥その他

日本語文化講座

- 沖 裕子 ② 1) 「談話論からみた方言と日本語教育」『日本語教育』第134号 (日本語教育学会誌28-37頁) [単著] 2) 「各地方言から見る『方言文法全国地図』中部 (長野・山梨) 方言」『日本語学臨時増刊号 方言文法全国地図をめぐる』第26巻第11号 (明治書院180-181頁) [単著] ④ 1) 「〔書評空間〕加藤広重『日本語文法入門ハンドブック』」(『月刊言語』第36巻第5号 大修館書店119頁) [単著] 2) 「長野県の方言」(『日本語学研究事典』明治書院593-594頁) [単著] ⑤ 1) サロンあがたの森講演「話しことばの世界」(サロンあがたの森講演 5月12日 (土) 於県の森講堂) 2) シンポジウム招待パネリスト (中川良雄・根津真知子・沖裕子・齋藤ひろみ) 「日本語教員養成課程の目指すもの一課程の学生にはどんな能力・資質の獲得が望まれるか」(大学日本語教員養成課程研究協議会10月5日 (金) 於龍谷大学) [共同] 3) 「日本語教員養成課程の目的と現状および課題」(『大養協ニュース』第33号4-5頁) [単著] 4) 「日本語談話論」(北京大学招聘講座10月9日—10月15日於北京大外国語学院日語系大学院) [単独] ⑥ 1) 日本語教育学会査読協力者 2) 社会言語学会理事 3) 同大会委員 (2006.8-2007.9) 4) 同広報委員長 (2007.9-) 5) 日本方言研究会世話人 6) 日本語学会評議員 7) 国立国語研究所全国方言調査委員会委員 8) 日本学術振興会平成19-22年度科学研究費補助金基盤研究C「日本語的発想と表現との関係に関する対照談話論的研究」課題番号19520389代表者
- 渡邊秀夫 ① 『勅撰和歌集と中国古代礼楽思想の和漢比較研究』(平成17年度—18年度科学研究費補助金 (基盤研究C) 研究成果報告書 [課題番号17520111]・2007年5月・pp.1-100・私家版) [単著] ② 1) 「宮廷和歌の確立—勅撰集としての『古今和歌集』」(『国文学解釈と鑑賞 (特集—和歌文学の成立と展開)』72-3・2007年3月・pp.55-63) [単著] 2) 「中国古代音楽論と日本の和歌文学—礼楽思想と勅撰和歌集—」(『Beyond Borders: Japanese Studies in the 21st Century in Memoriam Wiesław Kotański Proceedings of International Conference』Warsaw, May 2006 Warsaw University, Oriental Institute. 2007年5月, pp.76-84) [単著] ⑥ 1) 講演「和漢比較研究の方法と課題」・「東アジアの中の和歌」(2007年9月5日・中華人民共和国・長春市・東北師範大) 2) 講演「和歌発生論と古代音楽論—『古今集序』を読む」(2007年9月7日・中華人民共和国・北京日本学

- 研究センター) 3) 平成19年度—21年度学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)「古代礼楽思想と勅撰和歌集の和漢比較研究」(課題番号19520146)に基づく研究を研究代表者として実施(平成21年度まで)
- 山田健三 ⑤「漢字部首システムの成立と変遷」(平成19年度名瀬地区国語教育研究会総会講演, 6月29日, ウィルあいち) [単独]
- 渡邊匡一 ⑥ 1) 神奈川県立金沢文庫冬期講座講師「聖教資料が開く新しい文化史研究」(1月28日) 2) 松本市立博物館特別展「小谷コレクション展—信州大学の名品—」企画展示(10月21日—12月9日) 3) 説話文学会委員(平成19年10月—22年9月)
- 白井 純 ②「高山寺旧箱番号調査報告」(『平成十八年度 高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集』, 築島裕, pp.L1-L9) [共著] ④「新村出『南蛮更紗』」(『日本語学の読書案内 名著を読む』第26巻第5号, 明治書院, pp.35-37) [単著] ⑤「キリシタン版の連綿活字について」(北海道大学国語国文学会, 2007.7.14, 北海道大学) [単独]
- 松本和也 ② 1)「昭和十年前後の“リアリズム”をめぐる一饒舌体・行動主義・報告文学—」(『昭和文学研究』第54集, 昭和文学会, pp13-25) 2)「郡虎彦(萱野二十一)の出版—「松山一家」を中心に—」(『国語国文』第76巻第9号, 京都大学文学部国語国文学研究室, pp19-35) 3)「対話(力)のために—平田オリザ「対話を考える」・「対話劇を体験しよう」」(『月刊国語教育』第27巻第8号, 東京法令出版, pp80-83) [単著] 4)「<戦場>の日記—火野葦平「麦と兵隊」」(『立教大学日本文学』第99号, 立教大学日本文学会, pp50-62) [単著] ⑤「<無頼派>の形成」(「太宰治スタディーズ」の会, 2007年6月23日, 早稲田大学) [単独]

比較言語文化講座

- 株丹洋一 ⑥調査報告「文部科学省特色ある大学教育支援プログラム 環境マインドをもつ人材の養成 平成19年度『海外環境教育実地調査(ドイツ)』報告」(信州大学, 平成19年12月, 29頁) [白井純と共同]
- 滝澤 壽 ①『近代日本人のフランス』(駿河台出版社, 214頁) [単著] ②「フランスのなかの日本」(『クインテット』第27号, 『クインテット』刊行会, p.43~60) [単著]
- 氏岡真士 ② 1)「影印挿増乙本《水滸伝》缺葉補遺」(『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第41号, 信州大学人文学部, 59-80頁) [単著] 2)「『漢書故事大全』について」(『ヨーロッパ現存中国学資料の研究』, 科研報告書, 46-73頁) [単著]
- 渋谷 豊 ④「ジャン・エシュノーズ著・谷昌親訳『ピアノ・ソロ—めっぼうおもしろいパリの奇譚』」(『ふらんす』2月号, 白水社, 66頁) [単著] ⑥ 1)「訳者が語る物語の魅力」(談話, 『通訳翻訳ジャーナル』2月号, イカロス出版, 126頁) [単独] 2)「ポーヴよ, 君は今夜もパリの屋根の下で靴下を洗っているのか?—蘇る<ダメ男作家>エマニュエル・ポーヴ」(信州大学人文学部公開講座 第53回夕べのセミナー, 7月10日) [単独] 3)「比較文学への招待」(信州大学模擬講義, 10月13日, 松本県ヶ丘高校) [単独]
- 野津 寛 ②“La structure du prologue des *Acharnins* d'Aristophane” (『人文科学論集:文化コミュニケーション学科編, vol.41 (2007)』, pp.81-103) [単独] ⑤「ホメロス『イーリアス』と『オデュッセイア』における嘆願について」(中央英米文学会, 12月

- 4日, 成城大学) [単独] ⑥ 1) 日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として, 講演会を開催(3月10日, アテネフランス; 6月30日, 早稲田大学) 2) *Philologica* 研究会発行『*Philologica*』第2号の論文査読を担当
- 吉田正明 ②「ブラッサンスの「澄んだ泉の中で」*Dans l'eau de la claire fontaine* について」(『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第41号, 信州大学人文学部, 45-58頁) [単著] ⑤「プレヴェールのシャンソン」(研究発表) [単独]・「プレヴェールをめぐる」(プレヴェール没後30年記念シンポジウム) [共同], (「第10回シャンソン研究会」, 12月8日, 於京都大学)

英米言語文化講座

- 清水 明 ① 1) 『<私>の境界—二十世紀イギリス小説にみる主体の所在』(鷹書房弓プレス, 全384頁) [共著] 2) 『英語文学事典』(ミネルヴァ書房, 全829頁) [共著] ②「映画『四重奏』をめぐる」(*CAP FERRAT* 第4号, 日本モーム協会, 4-8頁) [単著] ⑤「映画『四重奏』とモーム作品の映画化について」(日本モーム協会, 1月14日, 東洋大学) [単独] ⑥ 1) 特集・小説の登場人物<アンケート>この人物がいい「ジューリア・ランバート」(サマセット・モーム『劇場』より) (『英語青年』6月号, 第1900号, 研究社, 22頁) [単著] 2) 「『ガリヴァー旅行記』を通してみるイギリス」(信州大学人文学部「英語学・英米文学分野」と長野県松本県ヶ丘高等学校とのコラボレーション事業の一環としての特別授業, 7月25日及び11月29日, 松本県ヶ丘高等学校)
- 橋本 功 ②「メタファーとメトニミの相互作用—聖書を読み解く認知メカニズム」(『人文科学論集』<文化コミュニケーション学科編>41号, 信州大学人文学部, PP.1-18) [共著] ⑤“*Hebrew Influences on English Bibles*” in *Symposium Old English Versions of the Gospels—a dialectal-synchronic comparison* (The Society of Historical English Language and Linguistics, International Conference (SHELL), 9月7日—9日, 名古屋大学) [単独]
- 杉野健太郎 ② 1) “*Demystification and Mystification of American Myths: A Textual Analysis of John Cheever’s “The Swimmer”*” (『中部アメリカ文学』第10号, 2007年3月刊行, 15-20, 査読あり) 2) 「チャーヴァー「泳ぐひと」とその時代」(『中四国アメリカ研究』第3号, 2007年3月刊行, 1-12, 査読あり) ⑥ 1) 特別授業「英学・米学事始」(2007年7月13日および11月29日, 長野県松本県ヶ丘高校) 2) 記事「学会誌『映画研究』第2号の編集を終えて」(『日本映画学会会報』第11号(2007年11月号) [<http://jscs.h.kyoto-u.ac.jp/kaihou11.html>])
- 花崎美紀 ② 1) 「内発的動機付けを高める, 大学生の英語教育のあり方: 高大連携を用いた取り組み」(『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第41号, pp.37-44.) [共著] 2) 「タイラー・エヴァンズの *Over* を批判する」(『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第41号, pp.19-36.) [共著] 3) 「Various Collaborations in an English Class on e-Learning System」(Proceedings for CIF7, pp.202-205.) [共著] 4) 「前置詞の意味・助詞の意味」(『JELS』24, pp.253-254.) [共著] 5) 「On Negative Questions —Practice-based Approach—」(『JELS』24, pp.51-60.) [単著] 6) 「“Over

-V”：使用場面に動機付けられた統語パターン」(『JCLA』7, pp.76-86) [共著] ⑤ 「「場所」を表す語から見る相同性」(日本英語学会, 11月9日, 名古屋大学) [共同] ⑥ 1) 日本英文学会中部支部事務局長(2006年10月—) 2) 日本言語学会第135回大会実行委員 3) 文学博士号取得(2007年12月12日, 慶應義塾大学)

飯岡詩朗 ①小林憲二編著『変容するアメリカ研究のいま——文学・表象・文化をめぐる』(彩流社, 364頁) [共著] ③デイヴィッド・ボードウェル, クリスティン・トンブソン『フィルム・アート 映画入門』(名古屋大学出版会, 533頁) [共訳] ④「レビュー：志村三代子・弓桁あや『映画俳優 池部良』(ワイズ出版, 2007年)」(『映像学』79号, 69-74頁)

芸術コミュニケーション講座

船津和幸 ②「『演戯の鏡』(*Abhinayadarpana*) 翻訳ノート(1)」(『信州大学人文科学論集・文化コミュニケーション学科篇』第41号, pp.105-126) [単著] ⑥ 1) 講演「印度今昔物語」(安曇野市国際交流協会, 国際交流研修会「インドを知ろう」, 安曇野市三郷公民館, 2007年4月29日) 2) 芸術コミュニケーション講座公開講座「ヴィーン音楽物語」(まつもと市民芸術館共催・テレビ信州助成, 企画・コーディネーター)(まつもと市民芸術館, 2007年5月20日, 6月9日, 7月7日, 8月18日, 9月8日, 10月6日, 11月1日) 3) 「ローカル発, 大学と文化施設の提携による公開講座の試み」(『音楽文化の創造』46号, 2007, pp.58-61) [単独] 4) Lecture「Bhagavadgita and George Harrison」(Institut für Indologie und Zentralasienwissenschaften, Leipzig Universität, Deutschland, 2007.11.15)

金井 直 ② 1) 「ヴェネツィア絵画, 絵画的」(『ヴェネツィア絵画のきらめき』展覧会図録, 豊田市美術館他, 194-196頁) [単著] 2) 「ピーノ・パスカーリ<偽彫刻>の表面から」(『イタリアにおける美術作品の保存・修復の思想と歴史—欧米各国との比較から』平成15-18年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書, 387-395頁) [単著] 3) 「近代日本における古代彫刻石膏模像の導入・展開について」(『鹿島美術研究』第24号, 鹿島美術財団, 389-396頁) [単著] 4) 「彫刻, そして天使」(『造形思考の軌跡—森堯茂彫刻の70年』展覧会図録, 町立久万美術館, 101-110頁) [単著] 5) “A Range of Vanishing Points: Contemporary Japanese Art”, in *Vanishing Points. Contemporary Japanese Art*, Exhibition Catalogue, Japan Foundation, pp.4-7. [単著] ⑥ 1) 「自刻像の射程?」(『PLUS OPUS』第5巻, 愛知県立芸術大学芸術学専攻学生専攻会, 2-4頁) [単著] 2) *Vanishing Points. Contemporary Japanese Art* (主催: 国際交流基金, ニューデリー国立近代美術館, 会期: 10月12日—11月11日, 会場: ニューデリー国立近代美術館) 展覧会キュレーション [単独]

北村明子 ② 1) 「ダンス作品 “Ghostly Round” 創作ノート」(『信州大学人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』, 第41号, 135-151頁) [単著] 2) 「皮膚の上で考えること」(『日本女子体育』, 第49巻第10号, 52-55頁) [単著] ⑤ 1) 「映像のダンス, 現前するダンス」(早稲田大学演劇博物館 COE 舞踊研究コース主催, 2007年3月11日, 早稲田大学小野講堂記念堂), [小作品創作発表・パネリスト] [単独] 2) 「わたしが伝えたい

動き・わざ・身体」(日本スポーツ運動学会大会 第20回大会, 2007年3月18日, 信州湯田中温泉「よろづや」会議場) [単独] 3) “where is the Asian in contemporary performing Arts today?” (Asian Arts Markets Esplanade Theater Singapore 主催, 2007年6月1日, Singapore Esplanade Theater) [シンポジウムパネリスト] [単独] ⑥<ダンス作品: 順に一作品タイトル, 主催, 発表年, 劇場, 演出形態> 1) “パラダイスローグー work in progress—” (Leni-Basso 主催, 2007年3月9日, まつもと市民芸術館提携) [単独振付・演出] 2) “finks —out step ver.—” (シビウ欧州文化都市2007 Színházi Sátor Sziget Festival Hungary 主催, 2007年5月24日, Pavilion) [単独振付・演出] 3) “Blind Trip” (Skin Project ACE dance and music 主催, Birmingham City Council 後援事業, 2007年9月6日初演, The Patrick Center) [単独振付・演出]] 4) “—in between—” <finks 改訂> (上海歌舞団・国安劇院主催, アンクリエイティブ共催, 2007年12月18日(上海)・21日(北京), 上海東方芸術中心・国安劇院) [単独振付・演出]